

第 8 回 プロジェクトチーム・スリープレイ

議 事 録

日時/会場：平成 26 年 1 月 29 日（水）14:00～16:30 / 役場臨時庁舎 3 階会議室

出席委員：谷順二、平松勝憲、堀井美也子、壬生貴則、小島幹生、穴原奈都、
菊池和式、山田由理子、菊地健一郎、浅沼浩希、関健太郎

欠席委員：平野光男、沖山勝彦、菊地直彦

三宅村：竹山課長、鈴木（記録）

1. 会議の資料確認

当日資料：①三宅島婚活ツアー

- ・収支予算書
- ・実施報告書
- ・アンケート集計結果
- ・参加者ヒアリングメモ
- ・日経新聞記事抜粋
- ・外部講師資料

②平成 25 年度活動報告（案）

2. 婚活ツアーについて

谷会長：みなさんお集まりいただきありがとうございます。本日は先日行った島コンツアーの反省と次回開催のタイムスケジュールの決定、それから今年度のスリープレイの実績報告のまとめについて、及び今年一年間どのように活動していくかを話合っていきたいと思う。

では、島コンツアーの予算報告をお願いします。

浅沼委員：皆さん、当日はお疲れ様でした。おかげさまで無事ツアーを終了する事ができた。

島コン全体の予算については、レディースランとの絡みもあるので、レディースランが終了した時点で予算も確定となる。収入額については記載のとおり。

参加費と補助金の合計が 2,962,500 円となる。

支出の部については、レディースランが終わらないと賃金の確定ができないので、全体支出額の残額が消耗品一式と合わせて計上しています。

収支予算書に沿って説明。

レディースランの予算については、まだ人数が確定していないので変動する可能

性がある。スタッフ人件費については今後レディースランの終了とともに確定させる。

谷会長：質問は？

この予算については、次回の会議までに発表できればいいが、レディースランが3月1日にあるので、皆さんに事前報告なしに執行するかもしれませんが、ご了承願います。

浅沼委員：次回の報告までに人件費を確定させていないと予算が確定できないので、レディースランの人数も確定すれば予算は執行できるので。次回開催までには予算を確定させればと思っている。

谷会長：今回のようなイベントを行った場合、これ位の予算がかかるという事を理解していただいて、竹山課長から年に2回できないかという案も出てきている。予算上2回できるかもしれないが、1回の開催がいいのか、2回がいいのかという所も考えながら、次の反省会につなげていきたいと思うので、予算の所は覚えておいて欲しい。

次に、実施報告を穴原委員からお願いします。これは穴原委員が見て感じた意見と、中塚さんが見て感じた意見、それから参加者に渡したアンケートの集計結果の2種類が添付されている。

穴原委員：実施報告からします。これはバイオアイランドネットワークから業務内容に関して報告してもらいました。業務内容として、スリープレイの運営サポート、それから他島の事前調査を行ってもらいました。集客宣伝はWEBやフェイスブックでの宣伝、参加者へのメールや電話での事前フォローや説明会の開催、当日はツアーに同行していただいてアフターフォローもしていただいています。業務実績としては、打合せの開催、事前説明会、チラシも作成してもらい色々な所へ設置し、イベントなどで配布してもらいました。また、WEBやメディアへの掲載や出演も行ってもらいました。そこで、参加者の傾向を出して頂いていますが、女性の目的が「三宅島へ行きたい」、「値段の安さ」が多く、男女の出会いを前面に打ち出していました、参加された女性の中で出会いを目的とした人が少なかったというのが傾向としてあがっています。

そして、実際の担当者所感としては記載してあるとおり。初対面のアイスブレイクとして都内のばんはしおさいで行った事はとても好評でしたが、時間が足りなかったため、女性が自己紹介するタイミングが大分遅れてしまったというのが女性からのアンケートでも挙がっています。

また、女性側のフォローという点から感じた事は、島コンの「コン」をコンパという意味を持たせてカタカナとしましたが、婚活の「婚」を打ち出してしまふと結婚相談所のレベルのサービスを求められてしまふというのが分かりました。スリープレイやバイオアイランドはそのエキスパートではないので、あくまでも場を提供するというスタンスを参加者にも理解してもらおうのが重要かと思いました。それは集客する段階でもう少し打ち出し方を考えた方がいいと感

じました。全体においては結婚のイメージというより、島のファンを増やすために普段できない経験や、島民の人との交流を前面に打ち出したイベントとして口コミで広げていくのがいいのではないかと。友達の紹介などでいい出会いにも繋がるのではないかと。

次に準備についてですが、決まってからの期間が短かったため、もう少し時間があれば打つ手が他にもあったかと思えます。ただ、我々からすれば短い期間の中で12名集めていただいたので、そこは評価できるのではないかと思います。ですから、もう少し時間を掛けられれば広報に関しても、もっと質の高いものが提供できると感じているそうです。

募集、周知に関しても、今回はWEB上で展開しましたが、雑誌等も使えばもっと波及効果が出てくるのではないかとという事です。

全体としては、島外のビオアイランドという団体としても、今後も三宅島の活性化に貢献できるのであれば続けていきたいと思っていますので、いい連携ができればと思います。

次にアンケートの集計結果ですが、Q1の「どのようにして本ツアーを知ったか」というのは、女性はホームページと知り合いからの紹介が多く、男性についてはほぼ知り合いからの紹介となっています。

Q2の「何に惹かれて申し込みをしたか」というのは、先ほども申し上げましたが、三宅島に行きたい、値段が安いというのが多くて、三宅島の男性に興味があって申し込んだという人が3人という事です。ツアーの内容については、全体的に楽しんでいただけたようです。スタッフの対応についても比較的満足いただけていました。最後に印象に残った・気になる相手はいたか？という問いに関してですが、女子は半分位はいたと回答しており、男性は13人中11人がいたと回答しているが、連絡先を交換した人がその半分の6人しかいなかったため、次回はもう少しフォローをするなり、男性に頑張ってもらわなければいけないと感じています。

最後のヒアリングメモですが、ビオアイランドが帰りの船の中で女性にヒアリングをしてくれた内容です。ABCのグループに分けているが、Aのグループはツアーに好感を持ってくれた方の意見です。Bは男性に頑張ってもらいたいと思っているグループ。Cの人は目的が最初から違って、島に興味があったという方です。

Aの回答で内容としては楽しかったが、男性が奥手だった所が残念だったと回答しています。これはBの所の意見とも共通していますが、男性陣のおもてなし力が欠けていた所が残念です。

運営として、フリータイムへの持って行き方や、一人一人ともっと話をしたかったという意見もあったので、次回に反映していきたい。実績としては、最後2人で行動した人が5組という結果でした。その後連絡を続けている方もいますし、ツアー中は2人で行動していなかった人達が年末年始に東京で会ってい

たというのでも何組か聞いています。また、三宅島へその後何人か来ています。個々にコミュニケーションが続いているのは評価できる部分ではないか。今回1回目として色々と見えてきた部分もあるので次回に繋げていきたいと思う。

谷会長 : 質問は。

小島委員 : アンケートの中で女性が印象に残った人がいた5人いたと回答していて、その方と連絡を交換したかという問いに8人となっているのはおかしくないか。

穴原委員 : 印象に残った人がいなかったが連絡先を交換した人もいたので。自分の連絡先だけ渡したという人もいた。

谷会長 : では、アンケートの集計結果に沿って一つずつ反省をしていきたい。

その後、ヒアリングシートについて話しをし、最後にみなさんの意見を聞いてまとめたいと思う。

まず、1番の告知について意見のある方はいるか。

小島委員 : 先ほど出たもっと時間があれば増やせたとやっているが、参加者はホームページやフェイスブックからこのツアーを知った人が多い。チラシ・ポスターはゼロなので、ホームページをもっと良くした方がいいのではないか。

穴原委員 : WEBの効果は大きいと今回も感じた。その期間をもっと長くすればいいのか・・・

小島委員 : バイクレースでもそうだが、長くすればいいわけでもない。結局は興味があるかないか。

浅沼委員 : 興味のあるキーポイントの所に広告を出せば意識を持った人が反応してくる事がある。

山田委員 : 新聞の効果もまだまだあると思う。

谷会長 : 話が前後してしまうが、Q2の「何に惹かれて申し込みをしたか」という部分で三宅島に行きたいという人であればそういうものに宣伝を載せればいいし、男性に興味がある人であれば、三宅島でも東京でも婚活というイメージだろうし、女性の意識によって大分変わってくるのでないか。

穴原委員 : こちらがどういう女性に来てもらいたいかを絞ればまた変わってくる。三宅島へ行きたいという人を前面にするのか、男性に興味のある人に来てもらいたいのか。

谷会長 : では1番については、WEB関係が有力だが、新聞等も活用していく。

小島委員 : 新聞は金がかかる。新聞社側が勝手に載せてくれるならいいが。

浅沼委員 : それについても問い合わせが色々あった。取材をさせてくれないというものもあったが、参加者のプライバシーもあって断ったが。

谷会長 : 次回またここに委託するのかわ、今回はこちらからこういうものも入れて欲しいという要望をあげればいいのか。男性陣についてはあまり気にしなくてもいいと思うが。

次Q2の「何に惹かれて申し込みをしたか」についてだが、三宅島に行きたい、値段の安さが上位となっている。

小島委員：複数回答が可という事は、これは同じ人が回答しているのではないか。三宅島に行きたいし値段も安いから。だからもっと高くても良かったのではないか。

菊地健委員：三宅島に行きたい人が9人で、三宅島の男性が目当ての人が3人という事は、三宅島に行きたい3分の1は男性目当てという事になる。だからここに広告を打てばいいのではないか。

浅沼委員：結婚はしたいけど、島が嫌という人もいるから難しい。

小島委員：バイクレースでもそうだが、オフロードの雑誌に広告を打っても満杯にはならない。なのでどこに打っても金のバラマキになってしまわないか。

谷会長：後でも出てくるが、「婚活」的なイメージなのか、島に定住者を増やすという所なのかによって、方向性も変わってくると思う。

浅沼委員：大きな方向性としては、男性と女性の交流の機会ではあるのというのは変わらない。

菊池委員：名称ではないか。名称でイメージも変わってくるから。島婚というと重いが、出会いと交流の場を提供するというような打ち出し方をすれば、もっと不特定多数の人が集まるかもしれない。

小島委員：そうすると他のアンケートにも係わってくるが、男性がもっと何もしなくなる。交流するつもりがないとなれば、余計何もしなくなる。

浅沼委員：あとは段取りをどうするか。男性陣には攻めさせるとか事前にレクチャーしておいて。女性は旅行がてらでもいいので参加してもらおう。男性には本気で行ってもらおう。今回のように島コンと謳っていても行かない男性は行かないので。

菊池委員：参加女性をもって増やしたいのであれば、女性が参加しやすい内容にしないとイケない。男性には事務局としてレクチャーをして、女性に積極的に攻めさせる。

浅沼委員：そうなれば、人数比も女性30人、男性10人でも良くなってくる。うまくマッチングができれば、交流とか広がり、繋がりを重視して島外女性を増やしていけば可能性が広がる。島内男性が少なくても成立するのではないか。

谷会長：ふれあい交流事業だから、そういう部分を前に出した名称になるのだろう。次にQ3の日程についてはちょうどよいという事なので予算的にもいいと思うが、これ以上長いときついと思うがどうだろうか。実際、東京に迎えに行っているし、島からの参加者にとっては短いと感じているかもしれないが。

それから内容について、ウォーキングやクリスマスツリー作りが良かったと回答してくれているが、次は夏場にやる予定としたら変わってくるだろう。

浅沼委員：アイスブレイクが1人というのはちょっと残念。次回もっとやった方がいい。

谷会長：女子会も評判がいいので。

壬生委員：女子会は島の女性は何人出たのか。

穴原委員：5人です。

谷会長：次にもこれは入れていきたい。

堀井委員：島の女の人ももっと増やして欲しいという意見があった。

浅沼委員：生活の様子を伝えるという意味では興味があると思う。結婚を意識した人達が島に来て考える事は先の事だから。

谷会長：あとは日程の中に時間を取るのもありだが、今度、交流事業というようになれば、島の女性もツアーに参加してもらい形を取ればその中でも話ができる。

小島委員：その方がいいと思う。交流を目的として打ち出すなら女子会はどうでもよくなる。

浅沼委員：交流だけだと、企画内容の持って行き方が難しくなる。

谷会長：女性の参加者は島の男性と交流する場と、既婚者についてはバックアップもお願ひしておくというのはどうだろうか。後は島に移住を進めてもらうような。

浅沼委員：結婚しなくても三宅島なり島で生活したいという考えがあれば。

谷会長：そこを求めていくとスリープレイで前から話しをしていた、三宅島の産業や住宅事情というもっと難しい部分にも繋がってくる。ただ、そういう動きがあつてこそ行政側も動いたりするだろうし。

次にスタッフ対応については、まあまあ安心してもらえていたので、これ以上質を落とさないようにしよう。

小島委員：男性にこの質問はしていないのか。

穴原委員：男性は商工会が窓口だったので。色々あつたと思う。

浅沼委員：色々言われたので。早めにとか説明会があるのかなど……。ただ締切時点で参加者が4名しかいなく、説明会どころではなかった。

穴原委員：男性の対応については反省する所がある。まず、今回は島外に行く所で天候に左右されてしまい、連絡が遅くなってしまった。

菊池委員：ツアー中のスタッフの対応について2名不安だつたと回答しているが、具体的な事は聞いているか。それが分からないと次にどう繋げていいか分からない。

穴原委員：そこまではアンケートの中で欄を設けてはいなかった。

男性からは、夜のリターンへの迎え時に不安を感じたと聞いています。

谷会長：それは15分位連絡が取れず待たせてしまった。

次の7-1について

穴原委員：カードを渡したのに、使い方が分からないや持ってきていない人がいた。ただカードがある事によって、いきなり聞くよりかはアトラクショナルな感じで取り組めたという方もいました。

谷会長：そこは次回、交流会というようになれば変わってくるだろうし。次回の反省として繋げられる。

小島委員：交流会にしたならそういったものは無くなるだろうし、フリータイムも無くなる。

浅沼委員：あまり多目的に事業を進めるとガツガツいけなくなる。

菊池委員：恋人を見つけようみたいな形で女性には言っておいて。出会いは誰でもできる。

浅沼委員：今回の総括としては、結婚を意識した人がいっぱいいたから、確立的には高くなるはず。

谷会長：話が次のABCの所にいっているので、そこを次話合っていく。

ツアーが終わってすぐアンケートの原本も見ながら私と実行委員で集まって話をした。ABCに分けたのは、まず結婚相談所レベルのサービスを求めていると思われる方達は、男性達に高い理想を求めている。ただそこに合わせてしまうとイベント自体が難しくなるし、男性が意気地がないというのも勿論あったが、男性がシャイなのかどうなのか。また、資料にもあるが、女性のヤル気を削ぐような発言を東京の船に乗る前にした者もいて、実際に3名の女性が船に乗るのを止めようとして、その方達を説得して船に乗せている。そういった経緯もあるので、男性が悪い、女性が悪いというのは言えないので、極端に良い意見と極端に悪い意見は切り離して話しをしないと今後やっていくにも難しいのではないかとこの事でABC分けている。確かに男性陣が情けないという部分もあったかもしれない、女性が指摘する部分があったかもしれないが、女性についても男性に対する求め方が過激な部分もあったので、そういう解釈でBのグループの意見を見てもらいたい。

関委員 : Aの意見で「寡黙な人かと思ったら2人になるとよく話す人がいて、理由は先輩達に出しゃばってると思われたくない」というのはなるほどなと思った。島内男性はみんなが顔見知りな訳だから。

谷会長 : だからスタッフの数を減らしたのは良かったと思う。

関委員 : そこで女性からは男性が奥手だとかシャイという風に見えてしまったのではないかな。

穴原委員 : でもそれが逆によく見えている部分でもある。先輩達を立てていたり、周りに気を使っている所を見てくれていた人もいた。

谷会長 : 男女の意識の違いを我々がうまく汲み込んでいかなければいけない。

小島委員 : 穴原委員が前に「男性は三宅島を売っている位の覚悟で臨んでほしい」と言っていたが、その通りだと思う。ただ結婚を目的とするのであればそこまで売る必要もないかとも思う。ただ男性はおもてなしという所でもう少しやってくれないと。

浅沼委員 : 受入れ側として、島に来てくれているという意識は最低限ないとだめ。

谷会長 : 男性にその辺りの心構えとして事前にレクチャーするという意見もあるが。

菊池委員 : 次回、参加募集をして、参加してくれる男性には前回の女性の意見としてこの資料を見せればいいのか。それで充分レクチャーになるのではないかな。

谷会長 : それくらいの方がいいかもしれない。レクチャーまですると・・・
その他何かあるか。

小島委員 : その後のカップルの状況は追っているのか。

穴原委員 : 続いているのが何組かいると。

谷会長 : 色々相談でメールは来ていると聞く。島での仕事の件だとか、島の事だとか・・・
今までの反省を踏まえた上で、次を組み立てていきたいと思う。
まず出てきたのが、物を作ってやるのが柱にあるのはすごい良い事だという話があって、次は何をやるかだが、バーベキューをやるのはどうかという意見が

ある。台など最低限の物を用意して、ゲームなどをしながら配る。あと必要な食材は自分達で取ってきてもらう。魚などは釣りでも手鮎でもして取ってきてもらうという案が出てきています。

結論から言うと、6月位がいいのではないかと話をしている。いつやるかはこれから決めるが、そこを決めれば準備にかかるタイムスケジュールも大方決まってくるので。次回開催を6月で行うという意見があるがどうだろうか。

全員 : 異議なし。

谷会長 : では6月という事で、これから早目に動いていかないといけないのと、その後天王祭、マリンスコーレ、イルカウォッチングなどもあってその後の集客にも繋がってくる。

小島委員 : 三宅島の一番いい時期を見に来てもらいたい。

谷会長 : 6月以外で何か意見があるか。

穴原委員 : 9, 10月頃を開催にすれば夏に三宅島へ来た方への周知ができる。イルカやダイビングで若い女性達も大勢くるので集客はしやすくなる。

谷会長 : 逆に決まればGW前に手を打つ事もできる。

浅沼委員 : 9月は台風のリスクがある。6月は梅雨のリスクだけだから時期をうまく選べは大丈夫ではないか。

谷会長 : 役場は問題ないか。

竹山課長 : 夏の観光シーズン前にできるといいと思う。7月から新しい船が就航するからそれも踏まえて検討してもらえればいい。

菊地健委員 : ジューンブライトでもあるし。

谷会長 : 6月の日曜日だと15日か22日になるか。29日になると梅雨の可能性があるから。なので6月の第3、第4の週末に充てるような形で考えていきたい。

小島委員 : 予算はすぐ出るのか。

事務局 : それは大丈夫。

谷会長 : おおまかに決めておきたいが、題名を「交流」でいくか、「婚活」でいくか。

菊地健委員 : 女性にはバーベキューで食材をとり島を“ぶらぶら”歩いてもらって、男性には“ブライダル”の意味で「島ぶら」でどうだろうか。

谷会長 : 女性陣はどうだろうか。

山田委員 : 島の参加者が結婚の意識がないと思う。あるのは最初に申し込んだ4名位で、あとはかき集めた感じだったので、ああいう発言があり、こういう結果を招いてしまったと思う。島の中で婚活のイベントを組むのは難しいと思う。交流の方が農業体験をしたり、純粹に島民になりたいという方も多かったので、結婚というのを外した方が参加女性には満足してもらえるのではないか。

小島委員 : それでいくとなぜ女の人と交流なの？という事にならないか。男でもいいし、釣りのお客でもいいではないかという事にならないか。

穴原委員 : 最終的には結婚とかも・・・

小島委員 : でも今外そうとしている。

谷会長 : 基本的には女性だけを島に連れてくるという事でいいか。交流となると男性が来てでもいいわけだから。

穴原委員 : ある程度目的を絞らないと、ただの格安ツアーになってしまう。補助金を投入している訳だし、人が住むという事であれば移住というのにフォーカスして島の仕事を見れるような。

小島委員 : そうなると男性の方がいいとなる。女性が三宅島に来て働くより、男性が来た方が働きやすいと思うから。

菊地健委員 : 女性をたくさん集めて、そういう所には男が寄ってくるだろう・・・位に考えておけばいいのではないか。

穴原委員 : 島に住みたい人に限定するのはどうか。仕事があればその中に盛り込んでもいいし。アテンドするのが島の男性にすればいい。

小島委員 : 男性からお金は取らないのか。

穴原委員 : ホスト側として出してもらうなら取らないで場を提供する。

小島委員 : そうすると楽になる。募集をしないから個別に出してもらう男性に頼めるから。

浅沼委員 : 男性を無料にするのもありだと思う。そうすると男性参加者も増える。

菊地委員 : ただBグループの意見も増える。

穴原委員 : ボランティアではないがこちらからお願いはしやすい。

小島委員 : 逆に3千円なり5千円払ってやってもらう方が楽。

菊地委員 : 具体的な話しになってしまうが、島の男性が来てくれた女性をエスコートしただけではなく、島の男性と遊びましよう的なニュアンスにしておけば両方ともあまり求めなくなるのではないか。

小島委員 : 2日目はどうするか。フリータイムはやってはいけないと思う。

穴原委員 : 選択制にすればいい。海に遊びに行く、山に遊びに行くなど。

小島委員 : レディースランのオプションのように。

穴原委員 : そこに男性も参加できるような内容にしておく・・・

菊地委員 : 達成感を持たせるのに、船が着くまでずっと同じ事をさせてもいい。

浅沼委員 : 目的として到達点が見えない気がする。交流して終わりになると何が目的なのか。

谷会長 : 2班に分けるか。島で結婚を望んでいるコースと望まないコースなどに。望まないコースは移住や島民のふれあいに興味のあるコースにする。そうすると多分望まないコースがすぐに一杯になる。

浅沼委員 : 2コース制はいいかもしれない。移住希望と結婚希望と。

穴原委員 : 人材確保の感じもあるが、例えば興味のある職種をある程度事前に挙げておいて。

谷会長 : 就職については、その後のケアができないのではないか。見せる事はできるが、今漁協でもやっているが、本人が三宅島に行きたいとなった時に家がない。乗せる船、船長もいない。せっかく集めて、来たいと言ってくれても断っている状態。

穴原委員 : 実際看護師や介護士などは・・・

谷会長 : 行政的な部分であれば職員住宅がある。ただ、民宿をやりたいだとか、とりあえ

ずアルバイトしてとかになってしまうと泊まる所がない。

穴原委員：そこをバックアップできないか。

小島委員：それをバックアップできるのであれば、今、島にいて家が無い人達をバックアップしてもらいたい。

谷会長：募集の時点で先にその事情を説明してしまうか。三宅島の職については体験できますが、その後については今こういう事情ですが、今後行政が検討していきますとは言えないから・・・どうするか。

菊地委員：相談窓口として小さく載せる位でいいのではないか。

谷会長：どこまでフォローがいるか。

穴原委員：きちんと現実的な所まで持っていかないと意味がない。

谷会長：それか看護師編にするか。医療系編とか、役場編とか・・・

穴原委員：そういう家を保証されている職種に限るか、ここの職種に関しては住居が確保されてますというのを事前に出しておけば、例えば民宿とかであればすぐにはないですけど探していけば・・・

谷会長：自分で探して、こういう方法があります位の事しか言えない。集めておいて知らないってわけにはいかないから。あらかた段取りをしてあげないといけない。

菊池委員：ただ当てにされても困る。

谷会長：就職相談センターみたいになっても困る。ちょっとそれは行き過ぎかもしれない。では、「島ぶら」に戻って、女性の単身者だけを集めるという事でいいか。

穴原委員：島に住みたい女性・・・島暮らし体験的な・・・

菊池委員：移住コースではなくて体験コースにすればいいのではないか。島体験コースと婚活コースで募集してもいいし、来た後に分けてもいいし。

小島委員：ある程度先に分かっていると2つのコースでイベントが変わってくるから。用意する人数にも影響してくる。

菊池委員：そうすると婚活ツアーに落ちてきてしまう・・・

菊地委員：島の男性に独身Tシャツを着せて分かるようにするか。

穴原委員：既婚者と独身を分けるには何か分かりやすいようにした方がいい。

谷会長：それはこちらで規制できるからいい。女性の独身者と既婚者と男性の独身スタッフだけで、既婚者男性は参加させない。あとは独身の女性を集めてそれを2つに分けるかどうか。2つに分けた方が人数は集まるかもしれない。

間口が広がるから、10人・10人で募集したとしても体験コースは安いから多分先に埋まる。ただ1日目のプログラムはみんな一緒にする。一緒にバーベキューをして、2日目に体験コースを入れる。そうすれば10人より20人の方が男性が頑張れば可能性が広がる。大筋はこのような形でいきますか。

2つに分けて間口を広げるという方向で進めたいと思う。

浅沼委員：あとは予算を考えながら定員の割り振りなどを決めていけばいい。

谷会長：実行委員についてだが2人とも引き続きやりたいと言っている。それと体制を男女もう一名ずつ増やしたいという提案がある。実行委員については、小島委

員と山田委員が指名されているので願います。
では一度休憩とする。

～休憩～

3. 今年度の活動報告案について

谷会長 : 事務局が今年度まとめた資料があるが追加、修正等はないか。正式なものを今年度村長当てに提出する。

穴原委員 : 婚活で5組のカップルが成立とあるが、成立とすると大げさな気もするが。フリータイムに2人で行動したのが5組という事なので。

谷会長 : 前回の会議で定義を決めたので5組でいい。

それと2番の検討課題について観光協会の事については、4番ではなく2番の中にいれてほしい。照会分については村長とも話しをした。協会の態度が気に入らないという事。あれだけ協会に貢献してきてあの言い方はないだろうと。

穴原委員 : 観光協会の立場でこれは回答するべきか。

浅沼委員 : 当然報告はした方がいいのではないか。意見についてどういう改善策を取ったなり・・・

谷会長 : ただ婚活の事がずっと忙しく、最近、検討課題について話ができているが、検討課題に議題が戻った時に今後スリープレイとして照会文を出すのか、どうするのかという動きも変わってくる。結果によってはこんな事をやってもしょうがないとなるかもしれないし、別の方法でいくという話になるかもしれない。それを今後どうするか検討課題でもある。

浅沼委員 : こういうのが協会に届いたら理事に伝えて、理事同士意見交換してもらったものをフィードバックして貰えればいいのか。

谷会長 : 普通はそうすべき。それができないからいつからそんなに偉くなったんだという話になってくる。色々な意見が出てきたら、スリープレイがどうのこうのではなく、物の本質を見なくてはいけない。そういう事を思っている人がいるというのを見なければいけないのに、その団体がどうのこうのではない。その団体は何者だよと言われるならお前こそ何者だよという話になる。

他にあるか。

菊池委員 : 5番の看護師の事についても、ツアーの参加者の事も含めた方がいいのではないか。波及効果として書いておいた方がいいのではないか。

谷会長 : それは事務局で追加する。実際に村民生活課長がスリープレイにこの話をしてくれなかったら、今回の話にはならなかった。

他に無ければ私と事務局に一任してもらって最終版を決めていく。

4. 今後の活動について

谷課長 : 取り急ぎの分については6月にふれあい交流事業を行うという事で当面の方向性は出てきている。検討課題でカテゴリー別に分けたものがほとんど手付かずになってしまっているのもやっぴいかなければいけない。それ以外にも検討していかなければいけない事も出てきていると思う。当面については次回「ふれあい交流事業」の話と検討課題の短期、中期の所の話も進めていきたい。それ以外に何かあれば意見を出してもらいたい。

小島委員 : ふれあい事業をやるとその話ばかりになってしまうから、別立てで進めるのはどうか。ふれあい交流についての人件費はその予算で払って、スリープレイの会議は検討課題をどんどん進めていく方がいいと思う。

浅沼委員 : 本来は予算も別なのでその方がいいと思う。

谷会長 : ふれあい交流は今回一度経験もしたし、実行委員も4名に増えたので、会議では実行委員で考えた結果を発表する場と、難しい部分についてこの場で議論するような「報告と相談」の場とし、出来る限り検討課題の内容をメインにやっぴい方向で進めていきたいと思う。
それ以外に何かあるか。

浅沼委員 : ふれあい交流などをずっとやっぴいきて住宅事情がやっぴいある。島外から来る人材を短期的にでも就労体験できる場所の確保をしてあげれば全体の活動がうまくまとまってくる気がする。先ほども出たように島で働きたい人や暮らしたいという人達の対策というのを構築して受け皿もあって、ふれあい交流も行って看護師などの人材確保のワンステップになる場所を一か所作ってあげられればいいと思う。そこから村営住宅への申し込みというステップを踏むような形。もともと人材や過疎化に歯止めを掛けるのにはどうしたらいいのかと云ったら、人の流動を増やしていくしかないの。

谷会長 : 今回島コンツアアを行って私も痛切に感じた。実際今までの話の中でも人材確保については議論の中にあっぴい、中・長期的な部分になっているがこれを短期の緊急課題においてそこは重点的に議論していくのもいいかもしれない。ふれあい交流事業を続けていくのであれば、「婚」というのを挙げると重いものになってしまう。今回うまくいかなかった部分ではあるが、本当に島に住んで欲しいというのを考えると、実際島の実情を考えると手持無沙汰な所があるからその課題は先にやるべきだと思う。

浅沼委員 : 緊っぴい対っぴいして、箱さえ何とかできれば対っぴいする内容の事はあるのではないかと仮住まいでも出来れば、即入居して村営住宅に応募してという流れで、先ほどの島で暮らしたい、移住したいという人達の期待に対っぴいできるやり方があるのではないかと。6月に間に合うか分からないが、動き出していい内容なのではないかと。

谷会長 : そこを一つ毎回の課題の中に入れるか。今までの話だと、ふれあい交流の話をし、検討課題について進めるという事だったが、別にこの課題も入れるか。意外と

これは大きい話だった。人材育成や教育の問題はすべての課題に関係してくる話題なので。

浅沼委員：ふれあい交流をやって島に住みたいという需要が間近に見えた状態では、即稼働すれば反応が出るのかという手応えはこの事業をやった成果なのだと思う。何とか早目の対応を取れると、人口を増やすという本来の意義に近い所で活動ができるのではないかな。

谷会長：事務局からそれ以外に何かあるか。例えば高校の話とかあったが。

竹山課長：あまり広げ過ぎてしまうと収集がつかなくなってしまうので、今までやってきた課題と島コンの中で出た課題を整理して繋げていけるような取り組みの方がありがたい。高校の問題もあるがそれについてはまた別の所でやる。いずれそこで出てきた課題をこの会議で諮ってもらえることもあるかもしれない。可能であれば検討課題で提案されたものの方向性を定めてもらって、ゆくゆくはそれが村の進むべき道になっていくので、今後の5次計画の中で取り入れて事業としてやっていかないといけないと思うので、方向性を早く出してもらえるとありがたい。課題だけを投げるのではなく、方策をどうするのか、実現するためには何が必要なのかという所を提案していただきたい。

谷会長：先ほど浅沼委員より話のあった議題については別紙で用意する。今回島コンをやったことで出てきた緊急の課題なので別立てで用意する。

小島委員：会議をするにあたって何を議論するかというのをその場で決めるのではなく、役場側から提案してもらいたい。

穴原委員：あまりにも広すぎるので、村として優先事項をきめてもらいたい。

浅沼委員：得意分野があるのであれば、羅列した課題を分散して持って帰ってある程度固めて修正したものを持って行くという事でも進む気がする。

小島委員：ただ自分で出来るならここではなくてもやっている。

浅沼委員：ある程度の人を介しながらパワーを使っていきたい。一人で色々な問題を解決するのは大変だし、気付かない所を気付く事もある。ある程度ビジョンを一人ずつが提示していく方向の方が楽しいと思う。色々な形のものでできていくから。

谷会長：部会に分けたり、時間で分けるよりは全員でやっていった方がいいという方向性は最初につけたが、実際この婚活の話などでなかなか進まない部分もあったので次回の会議で一回整理する。今一番スリープレイとしてやらなければいけないのは、浅沼委員の言った住宅事情やIターン者の迎え入れの準備についてはすぐに話し合わなければいけない。ふれあい交流事業をやっていくには、そこに手を出さなければいけない部分というのが見えてきたわけだから。次回話をしていく。また、情報として連絡するが、スリープレイに入りたいと立候補してきている人もいる。そういう話題が出る事はスリープレイとして幸せだと思う。任期や改正があるのかと聞いてくる人もいる。

5. その他について

特になし。

6. 次回開催について

谷会長 : 次回開催は3月4日(火) 14時からとする。

以上で閉会とする。